



視覚障害

何らかの原因により視覚機能に障害があることにより、全く見えない場合と見えづらい場合とがあります。見えづらい場合の中には、①細部がよくわからない、②光がまぶしい、③暗いところで見えにくい、④見える範囲が狭い、⑤特定の色がわかりにくいなどの状態があり、一人ひとり違います。

視覚障害のある人はこんなことに困っています

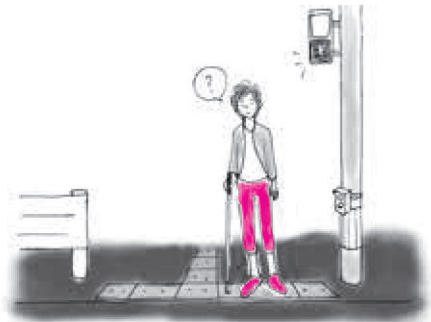
●一人で移動することが困難です。

慣れていない場所では、一人で移動することが困難です。

●耳からの情報をたよりにしています。

目から情報を得にくいいため、音声や手で触れることなどにより情報を得ています。

また、視覚障害のある人すべてが点字を読めるとは限りません。



●自分がどこにいるのか、そばに誰がいるのか、説明がないとわかりません。

●人の視線や表情が理解できず、コミュニケーションに苦労します。

●文字の読み書きが困難です。また、タッチパネル式の機械はうまく操作できません。

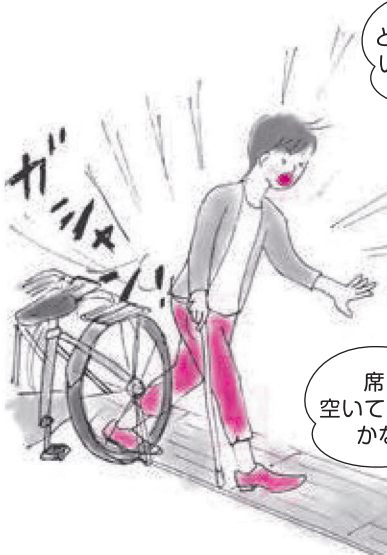
●「見えないからできない」のではなく、「見えなくても教えてもらえばできる」ことが多くあります。

●点字ブロックの上に、物や自転車などが置かれていると困ります。

道路・歩道で

○歩道の点字ブロックの上に自転車や看板があるとぶつかる。

○点字ブロックがはがれているとどこに行けばいいのかわからない。



どこで待てばいいのかな？

電車やバスのなかで空席があってもわからない

席は空いているのかな？

交通機関で

車両乗降口の位置がわからない。



買い物で

おなじ形の商品の判別ができない。

賞味期限がわからない。



どっちが新しいんだろう？

商品の配置が替わるとわからない。

前はここに牛乳があったはずなのに・・・



視覚障害のある人と接する時は

視覚障害のある人が、何かを探していたり、不安そうな表情であれば、まず声をかけてください。また、横断歩道前や駅のホームなどの危険な場所を歩いている場合には、ためらわずに声をかけてください。

ポイント1 まず、声かけ

突然、腕をつかんだり引っぱったりしないで、まず声をかけてください。

【例】「なにか、お困りですか？」



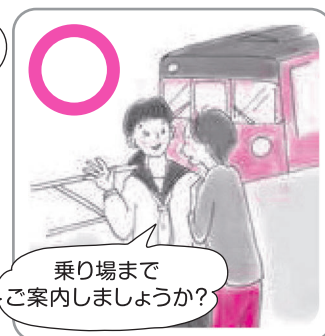
ポイント2 具体的な説明

説明は、頭の中で地図を描けるように具体的に伝えてください。

【例】花屋さんに行くには「ここからまっすぐ前へ10mほど進むと交差点があります。交差点を左に曲がったところが花屋さんです。」

視覚障害のある人にとって駅のプラットフォームはもっとも危険で不安を感じる場所です。説明だけでなく、車両乗降口や改札口まで誘導してください。

【例】「乗り場まで、ご案内しましょうか？」



ポイント3 安全な誘導

誘導は、視覚障害のある人の手を引くのではなく、視覚障害のある人にひじか肩を持ってもらいます。誘導する人は脇をしめ、段差や階段の前ではいったん止まり、言葉で伝えます。けっして手を引っぱったり、肩を押ししたりしないでください。

わからない時には、視覚障害のある人にきちんと尋ねてこれでいいかどうか確認します。

【例】「こちらを持っていただいてもいいですか？」



ポイント4 白杖SOSシグナル

白杖SOSシグナルを見かけたら、「どうしたのですか」と声をかけ、困っていることを聞いてサポートしてください。

「白杖SOSシグナル」運動とは

東日本大震災などを契機に、白杖SOSシグナルが見直されようとしており、岐阜県岐阜市が平成27年3月に制定したシンボルマークを活用し、全国的な普及啓発をめざしている運動です。

